令和６年春 大学院医学薬学府学位記伝達式 学府長式辞

皆さん、本日　修士、博士の学位を取得されましたこと、心よりお祝い申し上げます。また、皆さんが研究に取り組む期間を支えてくださり、今日のこの晴れの日をともにお迎えになっていらっしゃるご家族そしてご関係の皆様にも、心よりお慶びを申し上げます。

これもひとえに、皆さんの並々ならぬ研究活動への努力と成果があったからこそであり、敬意を表したいと思います。

さて、医療や医薬品は常に進化し続けています。特に近年のパンデミックは、医療の重要性を再認識させるとともに、新たな挑戦と機会をもたらしました。

記憶に新しいところでは、昨年度のノーベル生理学・医学賞は、新型コロナウイルスの「mRNA ワクチン」の開発に大きく貢献したカタリン・カリコ氏とドリュー・ワイスマン氏に授与されました。彼らは 2005 年の論文で、mRNA をヒトに投与したときの炎症反応を抑える方法を発表しました。この「ウリジン」を「シュードウリジン」に置き換える手法が、医薬品としての基礎を確立し、2020 年初頭に始まったパンデミックで、新型コロナウイルスに対する効果的な mRNA ワクチンの開発に不可欠だったのです。

しかしながら、カリコ氏は研究キャリアを通じて多くの困難に直面しました。ハンガリーで学位を取得後、研究所に職を得ましたが、1985 年に 30 歳で解雇されました。その後、夫と娘と共にアメリカへ渡り、ポスドクの地位を経て准教授まで昇格しましたが、研究内容に理解や資金が得られず、非常勤准教授に降格されました。2013 年には、ペンシルベニア大学が彼女を正規雇用職へ復帰させることを拒否したため、同年にドイツのビオンテック社へ異動しました。

カリコ氏はノーベル賞受賞時のインタビューでこう述べています。「当時、人々は私を成功していないと判断しましたが、私は非常に成功していると感じていました。なぜなら、実験室では実験を行い、質問をし、それに対する答えを得ることを完全にコントロールできていたからです。もちろん、実験を行うと答えを得るのではなく、さらに多くの質問が生まれます。しかし、これがエキサイティングなところです。資金を得られないことや他の困難があるように見えますが、実際には科学者であると、常に失敗と戦い、問題を解決しなければなりません。繰り返し行い、理解できないこともありますが、科学者は立ち上がって同じ熱意で働き続けることができる人たちで

す。これが実際には成功の一つの定義です。」

また、若い科学者たちへのメッセージとして、彼女はこうも述べています。「若い科学者たちが他人と自分を比較して、他人はあまり努力せずに、自分よりも恵まれた環境にあると感じているのを見てきました。私は『そんなことはしないで、自分ができることに集中しなさい』と言います。他人に注意を向けていると成功しません。自分ができること、自分のプロジェクトに集中しなければなりません。」

皆さんがこれから歩む道には、多くの困難が待ち受けているかもしれません。しかし、ここ、千葉大学で培った知識と経験、そして仲間との出会いや絆が、皆さんを支え、導いてくれることでしょう。未来に対する希望を胸に、自信を持って前進してください。

最後になりますが、今後も千葉大学大学院修了生として、先輩、後輩たちと繋がりを持っていただき、自信と誇りを持って、社会の多方面で活躍されることを心より祈念し、私の挨拶とさせていただきます。本日は、誠におめでとうございます。

2024 年 9 月 27 日

大学院医学薬学府長 伊藤 素行